明けぬ夜を鳴く

燈　優

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
明けぬ夜を鳴く

【Ｎコード】
Ｎ４４９０ＢＡ

【作者名】
燈　優

【あらすじ】
揺れる雪洞と揺れる手と。
いつを狭間に、冬の来るのか。

飛び飛び回れ、遊び、遊べよさて廻れ。
跳ねる足についてゆくからだと手の振りに揺れる雪洞(ぼんぼり)弾む雨。灯は消えうせて暗い雪洞明かりはいずこ。
弾む足は止まることなく憂うことなく雨を返して手のひらは地を写す。提灯のような火のない雪洞花ひらは象られ花ひらはほころび花ひらは花ひらへと花ひらへと。
降り降るひとつの円たちはほそりとさいごにひとつ述べ、それを最後とひとつに消えゆく。藁に落ち瓦に落ち布に落ち地に落ち水に落つる合間は果てのなく短さをたたえているように。空を見上げることの叶わない案山子が雨に泣く。
文鳥は少女の名を呼び続け漆の籠から飛び立つ術を知らず朱を引いた眦(まなじり)に感情を灯し。跳ねる雪洞は変わらず暗いを吸い込み続ける。文鳥は少女の名を鳴き続ける。
足を地に着け止め振り返る雪洞がくると向き手はすらと回り。ひとつ述べひとつ述べ、ゆく円のなか振り返り振り向いて。雫よりも暗い瞳にどこから入り込む光源のひかりをひとつひとつ映し、少女。
瞬くことはなく手に持つ雪洞を高く高いへ上げた。
ひとつひとつほそりとさいごをひとつ述べ落ちていた雨が雨が、ひとつひとつふうりとさいごを讃えるものに変わり落ち降り始める。
白を象ったふうりと落ちる落ちる雪は藁に落ち瓦に落ち布に落ち地に落ち水に落つる合間は数瞬の悟りと夢の間を行き来する。空を見上げることはない案山子が泣いている。
消え失せて暗い雪洞明かりは灯らず。止まりを得た足は再び持ち上げられる雪洞が揺れる手が揺れる。
飛び飛び回れ、遊び、遊べよさへ廻れ。
跳ねる足についてゆくからだと手の振りに揺れる雪洞狂う雪。灯は灯らずに黒の雪洞朱色はいずこ。

弾む足は止まることなく悲しみを詰め込んだ雪を振りほどいて手のひらは握られることなく。花ひらを描いた雪洞に花ひらは花ひらは、散ることなく咲くことなく綻びることなく蕾むことなく。花ひら、花ひら。

文鳥は朱色の漆の中で鳴いている。外へ出ることを知らず外を出ることを知らず外と出ることを知らず。

雪洞は弾み舞い上がる風に落ちることを許されなかった雪は浮かぶ。落ちるときはまだだと細やかな結晶。

案山子は一本の足で立ち続け、見る者のない乾いた田んぼで泣いていた。

文鳥は鳴く。

「千夜、千夜」と。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n4490ba/

明けぬ夜を鳴く

2012年1月12日01時58分発行